

授業概要

科目名	解剖学Ⅰ				授業の種類	講義	講師名		
授業回数	38回	時間数	75時間	(4単位)	配当学年・時期	理学療法士科1年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
「解剖学」とは、生物の正常な形態と構造を学ぶ学問である。「解剖学Ⅰ」では、身体を支持し運動に関与する運動器（主に骨格系と骨格筋）について講義する。さらに筋骨格系を機能させるための神経機構の基礎についても講義を行う。内容としては、生理学や運動学とも関連付け、基礎3科目との関連性の理解を促す形で講義を行う。骨・関節と骨格筋の形態（かたち）のしくみと意味を知り、基礎3科目との関連性を理解し、臨床的な問題とも関連付けて理解することで、適切なリハビリテーション実施の基盤を理解できるようになることを目的とする。									
〔授業全体の内容の概要〕									
身体を形づくり、運動を行う運動器系を頭部、体幹、上肢、下肢に分け、それぞれの形態と機能を系統的に解説する。また、筋骨格系を機能させる神経系の基礎についての講義も行う。方法としては、Teamsを活用した反転授業や小テストを行い、理解促進を目指す。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕									
人体の骨・関節の名称、構造と機能、位置、骨性指標となる骨格、さらに骨格系の臨床的特徴について説明できる。									
人体の骨格筋の名称、構造と機能、位置と走行、支配神経や脈管系との関係、さらに骨格筋に関する臨床的特徴について説明できる。									
回数	講義内容								
1	解剖学総論								
2	骨・関節の構造と機能①								
3	骨・関節の構造と機能②								
4	骨・関節の構造と機能③								
5	頭部の骨・関節・連結①								
6	頭部の骨・関節・連結①								
7	体幹の骨・関節①								
8	体幹の骨・関節②								
9	上肢帯と自由上肢の骨・関節①								
10	上肢帯と自由上肢の骨・関節②								
11	下肢帯と自由下肢の骨・関節①								
12	下肢帯と自由下肢の骨・関節②								
13	骨格筋の構造と機能①								
14	骨格筋の構造と機能②								
15	骨格筋の構造と機能③								
16	頭頸部の筋①								
17	頭頸部の筋②								
18	体幹の筋①								
19	体幹の筋②								
20	上肢帯の筋①								
21	上肢帯の筋②								
22	自由上肢の筋①								
23	自由上肢の筋②								
24	自由上肢の筋③								
25	下肢帯の筋①								
26	下肢帯の筋②								
27	自由下肢の筋①								
28	自由下肢の筋②								
29	自由下肢の筋③								
30	自由下肢の筋④								
31	神経の構造と機能①								
32	神経の構造と機能②								
33	末梢神経と神経叢								
34	骨格筋の神経支配								
35	中枢神経系の解剖①								
36	中枢神経系の解剖②								
37	中枢神経系の解剖③								
38	まとめ								
【 準備学習・時間外学習 】									
毎回の授業終了時にその日の授業のポイントと次回の授業概要を説明するので、テキストに色づけや記載しながら予習・復習を徹底する									
【 使用テキスト 】									
書籍名					著者名		出版社		
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第6版							医学書院		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】									
各単元ごとの小テスト、筆記試験（中間試験、期末試験）を実施し判定する									